

「短期派遣」を終えて

校長 高井 俊直

今年度の短期派遣は、7月31日から8月9日までの10日間、教職員3名、生徒12名、そして近藤PTA会長様の総勢15名で実施しました。

今年度は、一昨年の訪豪時の反省等をもとに次の3点を軸に再構成をしました。

- ①旅費等を削減することで、より多くの生徒が参加しやすい条件・環境を整える。
- ②姉妹校生徒宅へのホームステイ期間をできるだけ長くする。
- ③オーストラリアの先進的なSTEM教育に生徒及び教員が触れる機会をつくる。

①については、ケアンズ滞在をやめ、直接メルボルンに入ることによって全体日程が2日短くなったものの、旅費等をかなり削減することができました。②については、ホームステイを従来より1泊多い5泊6日とすることができ、授業参加時間数も増えました。また、ホストとの交流はより深まり、短期派遣の趣旨がより反映されるものとなりました。③については、生徒は理科の授業を受ける機会を得、教員は、州立の科学教育機関やSTEM教育を実践する私立高校の見学が実現しました。テーマをもって交流を進めようというロンダ校長先生の意向にもマッチしたものとなりました。このような迅速な変更・要望が実現できたことは、長年に渡る両校の信頼関係に基づいた姉妹校交流の賜物であり、その礎を築いて頂いているエルウッド会の皆様方には本当に感謝を申し上げます。32年にも及ぶ交流の重みを認識し、両校の生徒に、よりふさわしい派遣事業にしていく所存です。今後ともどうぞよろしくをお願いします。(下に、派遣事業の様子をHPから抜粋しました。)

昨年両校の生徒が協力して作った有松校りがエルウッドカレッジに飾ってありました。ロンダ校長先生と高井校長



③ 8月3日(木) 歓迎式典 (Welcome Assembly)

8月3日(木)からは、大府東高校の生徒はホスト生徒と會校。保護者の自家用車で来る者、電車とバスを乗り継いで来る者、自転車から来る者など様々な。午前の歓迎式典は、大府東高校に派遣経験のあるエルウッド・カレッジの生徒が中心となり日本語で進行しました。西国の国歌斉唱の後、代表生徒の挨拶や両校の校長先生の挨拶、記念品交換が行われました。すでに1月前から長期派遣プログラムで来ている柏木君も加わり、姉妹校の生徒からは、大変ありがたい歓迎を受けました。式典は、本格的な音響照明装置を備えたエルウッド・カレッジ内のPhoenix Theaterで行われました。



Copyright (C) 2016 Aichi Prefectural Obu Higashi Senior High School All Rights Reserved

⑤ 8月4日(金) エクスカーション(メルボルンクリケット場・メルボルン博物館)

8月4日(金)は、エルウッド・カレッジの生徒とエクスカーションをしました。観光バスで、1956年のメルボルンオリンピックのメイン会場となった10万人収容のメルボルンクリケット場(MCG)、MCGに併設されている国立スポーツ博物館、そしてメルボルン博物館を訪れました。生徒たちは、エルウッド・カレッジの先生が作成した冊子「My Learning Journal at Elwood College and in Melbourne」を使って研修を行いました。すでにホームステイも2泊目が終わり、生徒どうしは英語でどんどん、やりとりしていました。



Copyright (C) 2016 Aichi Prefectural Obu Higashi Senior High School All Rights Reserved

⑨ 8月7日(月) 教員プログラム:ビクトリア宇宙科学教育センター見学・私立高校のSTEM授業参観

8月7日(月)は、エルウッド・カレッジからロンダ校長はじめ、理科・数学・保健体育の先生5名とともに、下の2つを見学しました。

ビクトリア宇宙科学教育センター 2006年にオープンした州立の宇宙科学(火星探査)に特化した施設。宇宙服を着て火星表面を模した施設に入り、金属探知機を使って「鉱物サンプルを探す」等のミッションを行います。PCから指令を出す生徒もいるので、課題解決能力の養成とチームビルディングの効果も期待できるそうです。また、高度な実験が可能な研究室もあり、私たちが訪れたときは、20名ほどの高校生が実験に取り組んでいました。

Nossal High School 私立高校。教室・職員室はガラス張りで見学しやすい環境。施設設備は整っています。生徒はPCを持参しての授業が多く、校舎内にはPCの修理ラボがあり、PCの不調があれば技術が直ちに修理してくれます。ピアノ等の個人レッスンをを行う部屋もあり、通訳として同行してくれた生徒は週に1回そこで個人レッスンを受けているそうです。STEM教育にも力を入れ、例えば、楽器を分解しながら自分の出る仕組みを考える授業や物理の授業として行うこと。数学の授業では、理解が進んでいる者は一人でPCを用いてどんどん進み、よくわからない生徒は、15人くらいがまとまって、先生から直接講義を受けていました。理科・国語・算数・経済等の授業も参観しましたが、いずれの生徒もPC持参しての授業でした。



Copyright (C) 2016 Aichi Prefectural Obu Higashi Senior High School All Rights Reserved

⑩ 8月7日(月) エルウッド・カレッジでのSTEM授業(科学・技術・工学・数学の融合型授業)に参加

8月7日(月)は、生徒は、エルウッド・カレッジでのSTEM授業に参加しました。エルウッド・カレッジでのSTEM教育は、レゴロボットを用いたプログラミングや教科横断型の授業が中心です。一方で、数学・理科等だけでなく、調理や芸術も授業もSTEM教育として位置づけられており、多様な教科の観点から一つの事象について探求していくことを狙い込んでいるようです。



Copyright (C) 2016 Aichi Prefectural Obu Higashi Senior High School All Rights Reserved

エルウッドカレッジ長期交換留学生 マデー・クリシュナピレー

The annual culture festival was a day Thea and I were lucky enough to be here for. My class made an entire work of art made from bottle caps - 2700 caps to be exact. 私とシアがこの時期に来て、文化祭を体験できたのはラッキーでした。私のクラスは2700コのペットボトルキャップで作品を作りました。

I have made so many friends whilst being here, everyone is so incredibly kind. The Kashikis - Yuto's family - and the Mizunos - Machi's family - treated me with so much kindness it was overwhelming. Their generosity and kind hospitality meant the world to me. I'm so thankful to both families and won't forget either of them. 私はたくさんの友達ができ、みんな信じられないくらい親切にしてくれました。柏木さん、水野さんには本当によくして頂き、感動しました。寛大な心で受け入れてもらって、両方の家族にとっても感謝をしています。決して忘れません。

Whilst being here, my understanding of and ability to speak the Japanese language has improved greatly. It's a one of a kind life experience and I'm so glad I decided to do it. この期間に私の日本語の力はずいぶん伸びました。この留学制度に参加すると決めて本当によかったと思っています。



While Maddie and I were attending Obu Higashi we were lucky enough to experience the cultural festival, a day where each class holds a different activity. My class 3-3 made a haunted house which was quite impressive. マデーと私が大府東に来ている間に文化祭があり、それぞれのクラスがいろいろな出し物を企画しました。私のクラスはお化け屋敷を作り、とても面白かったです。

Through this amazing opportunity I have made life-long friends and memories that I am sure to never forget. Thank you so much for my host families for hosting me throughout my stay, you were so kind and welcoming. My understanding of the Japanese language has improved immensely and I am looking forward to visiting Obu Higashi once again next year. この素晴らしい機会に私は一生の友人を作ることができました。また忘れることができない素晴らしい思い出もできました。ホストファミリーには私を温かく、迎えて頂いたことに本当に感謝しています。私の日本語の理解力は格段に上がり、来年また是非、大府東に来たいと楽しみにしています。

長期派遣生 報告2年2組 柏木 雄翔

僕は7月1日に中部国際空港を出発して、8月9日まで今年度長期派遣生としてエルウッドカレッジに通いました。最初は慣れない生活と文化の違いに戸惑うことも多く、忙しい生活を過ごしていました。しばらくすると、生活にも慣れ、最終的にはすべてが楽しく、忘れられない最高の思い出を作ることができました。また、この経験を通して、世界にはいろいろな価値観があることがわかり、様々な体験をしたことが自分の自信につながっています。そして運良く、先生の協力もあり、現地でボランティア活動に参加することができました。ボランティアの内容はメルボルン在住の日本人高齢者のシニアサポートです。これまでボランティア活動をしたことがなかったのですが、自分の将来の夢である、作業療法士の仕事についてオーストラリアでの様子を聞くこともできました。

僕が今回強く感じたことは、オーストラリアの人々は自分の考えを持つことを大切にしている、それ故に口論になることもあります。しかし、時には意見を戦わせるくらい、自分の意見を伝えることは大切だと思いました。

日常生活の中では、電車の中で電話をしている人がいたり、壁に落書きがあつて、場所によってはそれを消さずにみんなが見て、楽しんでいたり、日本とはずいぶん違うな、と思いました。僕のステイしていた家庭では毎週

日曜日にラム肉を食べ、よくオリーブの実を食べていました。

今回の派遣で、たくさんの友人ができました。大人になっても会おう、と約束した友人、僕のことをブラザーと呼んでくれる友人もいます。エルウッドカレッジには多様な国の留学生が来ていて、様々な国出身の留学生と友達になることもできました。

最後に、普段から、たくさんの人に支えられて生きているのだ、と実感しました。それは両親であったり、先生だったり、友人だったりしますが、僕は感謝しなければならないな、と思いました。

今回の経験を将来に活かして、世界で活躍できる作業療法士になるという夢を実現させたいと思っています。

2年ぶりのエルウッド引率教員 柴崎 靖子

今回2回目の引率の機会を頂き、ロンダ校長先生や、栗原先生、ウィル先生と再会をして参りました。この数年間で世界の状況も大きく変動し、私たちが訪問する前日にはシドニーで搭乗前の手荷物チェックで爆発物を持った男が捕まるという事件もあり、若干の緊張とともにメルボルンへ。エルウッドカレッジでは変わらぬ温かい歓迎を受け、現在建設中の新しい校舎の設計図を見せて頂いたり、実際の工事現場を案内していただき、姉妹校ならではのもてなしを受けました。

生徒たちは出発前の緊張はどこへやら、翌日にはホストの生徒がしっかりと案内役を務め、楽しく学校生活を送っているようでした。言葉に不安があった生徒も、家族が温かく受け入れてくださったこともあり、帰るときには気持ちを通じるといふ喜びとともに、もっと話したい、もっと長くいたい、という思いを強く持ったようでした。フェアウェルパーティーでは、よさこいを披露し、最後にはエルウッドの生徒たちも加わって一緒に楽しい時間を過ごしました。今回長期生として大府東に来ていたマデーの兄、ジョーも数年前に長期生として大府東に来ていて、御両親とジョーとも再会できました。これこそが長年エルウッドカレッジと大府東高校が交流を続けているから体

験できる喜びであると、再度、思いを強くしました。

新校舎の完成は来年1月ということで、来年度短期派遣でエルウッドカレッジの先生方や生徒たちをお迎えする際は詳しい様子もきっとわかると思います。是非新校舎を訪問してみたいものです。

短期派遣を終えて引率教員 吉田 朱里

今年度の短期派遣は、十二名の生徒と、近藤PTA会長、高井校長、引率教員二名、NES Aのローズマリーさんの計十七名の訪問団で、十日間で実施されました。ここでは、教員である私の視点から気づいたこと、感じたことを報告したいと思います。

まず、授業のシステムについてです。授業を見学する中で、各々の教員の裁量が非常に大きいということを感じました。検定教科書等はなく、教員が学期ごとの指導計画を立て、実情に合わせた目標設定をしていました。受け持つ生徒数が少なく、一つの科目を一人で指導していることにより、柔軟な対応が可能であり、指導過程も改善を図りやすいと感じました。また、プロジェクターやコンピューター等のICT器機が授業で多用されており、課題の指示等も学校のアカウントを通して行われるということで、日本の大学さながらの授業システムが見られました。

次に、「プロダクション」についてです。私たちが訪問した際、ちょうど「プロダクション」という活動の一環で、有志によるミュージカルが披露されていました。指導教員はいるものの、「孤児院を舞台とした自分探し」という舞台の脚本・演出がほとんどすべて生徒によって行われていました。二時間の大作で、笑いもありながらも、最後は感動で締めくくられました。ミュージカルを観覧して、外国の人に対して、「表現が豊かである」というのは私たちがなんとなく抱いている印象であるとは思いますが、それは個々の表現力ではなく、周りの人間の許容する力の問題ではないかと思うようになりました。大げさと思われる演技もありましたし、歓迎セレモニーでも、得意の歌を披露する生徒もいました。そのような表現に対して、周りの生徒は一步引いて見るのではなく、それらをありのままに受け入れ、称賛していました。日本では、自分を表現する機会が少なく、あったとしても恥ずかしさから臆病になってしまう生徒が多いように思います。そういう生徒を励ますことはもちろんですが、それ以上に、周りの生徒が他者をありのままに受け入れることの大切さに気づけるような声かけをすることが大切だと感じました。

今回の派遣は、教員である私にとっても大変気づきの得られるものでした。両校の姉妹校関係が今後も末永く続いて行くことを願うと共に、ひとりでも多くの同世代の教員と、今回の気づきを共有できたらと思います。